

6 白倉B区36号住居出土の鋸

鋸が出土した36号住居は、白倉B区の東寄りに位置する。この地点は当遺跡の中央部にあたり、台地を縦断する古代の道に隣接している。

鋸は住居内の西側縁辺の床面からやや浮いた状態で出土しており、目釘を装着した完全なかたちで発見された。住居に伴う土器は8世紀前半であり、鋸もその年代をあたえてよいだろう。なお、住居の規模は普通で、鋸の他に目立った遺物は出土していない。

実測図と想定復元図を第55図に示した。鋸身が湾曲しているのは、土圧によるものであろう。また、表面の藁様の圧痕は、住居の屋根材の圧痕と思われる。目釘の細いほうの端部が鍵の手状に曲がっているのは、柄が付いていたことを示しており、使用できる状態であったことがわかる。鋸歯は箱屋目で、アサリ・ナゲシともに認められる。

この鋸の大きな特徴は背が厚いことで、特にもと側はアサリの幅よりも厚いようにみえる。これでは歯道を進むことがむずかしい。良く切れる鋸は歯側が厚く、そこにアサリとナゲシを加えて、歯道のとおりを良くしている。それに対して当遺跡出土の鋸は、歯道のとおりが悪く、使いづらいものであったと考えられる。これは、鋸身を長くするために必要な強度を、厚みで補った結果かもしれない。

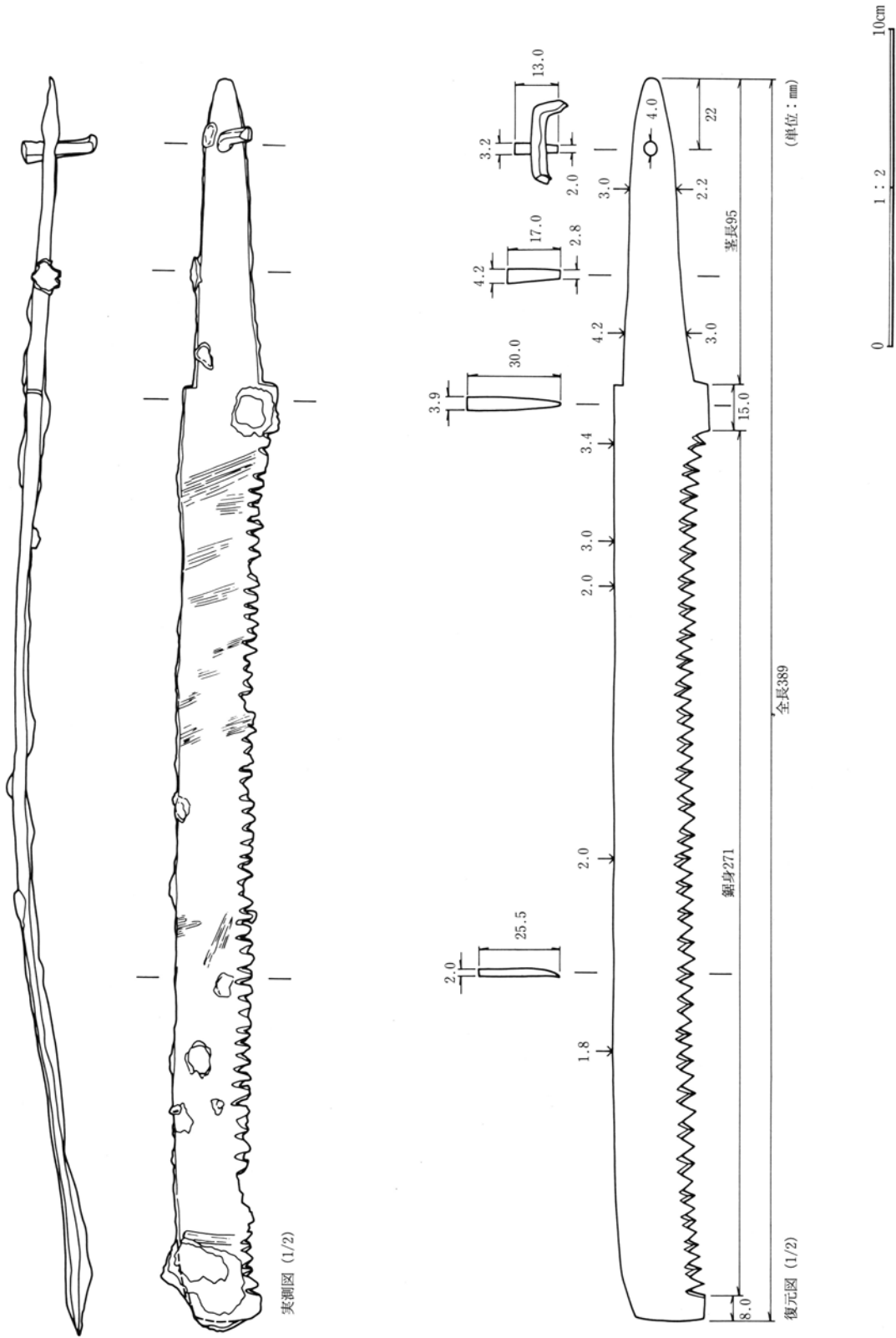
なお、参考として県内出土の古代鋸一覧を掲載しておく。このなかでは、冷水村東遺跡例がほぼ同じ形態だが、本遺跡例より薄手のつくりである。

表27 群馬県出土の古代鋸

	遺 跡 名	出土遺構	時 期	出 土 鋸 の 概 要
1	愛宕山遺跡 (松井田町松井田)	A区4号住居	8世紀後半	鉄弓が付く弓張鋸。歯列が中央で反対になる縦挽き用のもの。鋸条31cm、鋸幅1.8cm。茎に木質が残る。
2	荒砥上川久保遺跡 (前橋市大室町)	3区8号住居	9世紀前半	もとを欠損するため関・茎は不明。先端が鍵の手状に突出し、歯道はわずかに内湾する。歯はアサリ、ナゲシがつく。現存部長さ13.1cm、幅1.7cm、厚み2.7mm。
3	鳥羽遺跡 (前橋市鳥羽町)	G区		小破片のため、詳細は不明。
4	糸井宮前遺跡 (昭和村糸井)	23号住居	10世紀後半	小破片のため詳細は不明。現存部長さ3.8cm、幅2.2cm、厚み2mm。
5	冷水村東遺跡 (群馬町冷水)	A区17号住居	8世紀	先端部を欠失するが状態は良好で、茎に木質が残る。歯道がゆるく内湾し、茎との間に両関がつく。歯はアサリ、ナゲシとも良好。現存部長さ30cm、幅2.9～2.2cm、厚み1.5～1.2mm。

〈文献〉

1. 群馬県史編さん委員会編『群馬県史』資料編2 原始古代2 1986年
吉川金次『ものと人間の文化史・鋸』塙法政大学出版局 1976年
2. 群馬県埋蔵文化財調査事業団『荒砥上川久保遺跡』1982年
3. 〃 『鳥羽遺跡』
4. 〃 『糸井宮前遺跡Ⅰ』1985年
5. 〃 『年報』14 1995年



第55図 白倉B区36号住居出土鋸と想定復元図